

エンジョイ・ジャパンのコーナー



人形のはなふさ
はなふさ よしと

英 義人 社長 講演

「和の心を伝えて・・・」

10月29日(日)13時~14時半 トスク会議室にて

和想館代表池田よりご紹介

私が、山陰に来て驚いたのは、主要都市に「はなふさビル」があること。子供の和に関わる商材だけで、こんなビルが立つのか！と感銘しました。現在山陰地方に7店舗も経営されています。

それで、さっそくはなふさの社長にお会いしたくて、銀行の方に紹介していただきました。とても気さくな人柄の若い社長さんなのでまた驚きました。

伝統文化を守っていきこうとの思いに感銘し、私が和の心を伝えたいと思っている部分と重なる点が多々ありました。ぜひ和想館の講演会でお話いただきたいとお願いし、快諾いただいた。

英 義人 (はなふさよしと) 社長 よろしく願いいたします!!

英社長 講演

一、はなふさの経営から感じたこと

1、はなふさの歴史

起業370年。200年前から人形を始めた。

私は10代目。東京工芸大学大学院卒業後、鳥取で物理の教員をしていた。平成8年に10代目として、はなふさの社長に就任した。現在山陰で7店舗を運営している。

2、攻め方を変えてみたら

鳥取市湖山に、はなふさの総本店を作った時の話。ゲストは誰がいいかとずっと考えてた。金さん、銀さんしかないとの思いにいたった。金さん銀さんは、公共のイベントにしか出られないと聞いていたが、あたって砕けるとの思いで、アポも取らずに名古屋の金さんのお宅に押しかけた。もちろん、いい返事はもらえず。

作戦を変えて、「山陰の方に一度カニを食べにきてください。そのついでに、ちょっと店の方によってくださったらいいから鳥取にいらしてください。」とお誘いした。そしたら、「あなたのところだけ、特別に行かせてもらいましょう」とのお返事をいただいた。

この成功体験を通じて、「攻め方を変えたら、不可能と思われていることでも、何とかできるんだと思った」また、PTAの役員をしていたときに、学校で 落合恵子・レモンちゃんに講演をしてもらおうと思った。落合恵子さんはいつも付き人に囲まれていて、なかなか近づけない。どうしたか？鳥取空港のトイレ前で、落合さんが出てこられたときに講演のお願いをし、OKしてもらった。

困ったときは、攻め方を変えてみてはいかかでしょう。道はきっと開けます！！

二、伝統文化の危機

1、この10年で特に希薄化

以前は、お正月といえど5日位まではどこもお休み。みんな家でゆっくりしていた。今は元旦からどこのお店も開いていて、単なる12月31日の次の日になってしまった。節句とは季節の節目を祝う儀式だが、季節感がなくなったためか節句の祝いが薄らいできている。

2、ひな祭りについて

おひなさまの雄雛はどちらに置きますか？
多くの地域は向かって左が雄雛。ただし京都だけは逆に右に置く。もともとは右に置いていた。昭和天皇が即位の礼の際、左に立った。それから全国的に向かって左に変わった。京都だけは伝統を重んじ、変えなかった。

・男の子もお雛さんを飾る地域がある。菅原道真公を飾る。米子、松江、出雲は飾る。全国的に見ても他に豊橋、浜松くらい。

3、七五三について

・山陰では「ひもおとし」と呼ぶ。産着の結び紐を落として着物にすることから由来する。この言葉は全国的には通じない。山陰特有の言い方。
・鳥取の但馬は七歳にする。また、浜坂の田島、米子、松江、出雲は旧暦の4月3日にするが、浜田までいくと、新暦の3月3日に戻る。

4、日本文化、地域文化の尊重

・このように、山陰のなかでも文化はさまざま。なんでこんなに違うのか。お店を出していく中で山陰内でも各地域によりこんなに違うものかと驚いた。どうやら、各地域の文化は平穏が長く続いた、江戸時代に確立したようだ。だから今の県の境めじゃなくて、江戸時代の藩の境界線により異なるようだ。
・最近男女平等、差別意識が高じて、このような節句の儀式が控えられるようになっていく。こいのぼりは男女平等に反するとしてこいのぼりの掲揚を止めている教育施設。差別にあたるとして雛祭りのひな壇を止めている教育施設がある。考え方はさまざま。間違っているとは言わないが、私は残念な気がする。
・昨今の高校の教科未履修問題。驚いたのは世界史が必修で、日本史が選択になっていたこと。自らの歴史を学ばなくてもいいということなのか？ 文部大臣が小学生の英語教育について「国語がわからないのに、外国語を学ぶのは時期早尚」との発言をして批判されていたが、自国の言葉、歴史を学ぶのは大切なことではないか。国際化はいいこと。けれど自国の文化を軽視するのは残念。
・一方で、数年前から、総合学習ということが言われだした。伝統文化に触れさせる時間を教育としてとりだした。古いもののなかに新しさを感じる風潮がでてきたのはいいことだと思う。

三、伝統と伝承

昔から引き継がれてきたこと(伝統)の中には変えてはいけないことと、時代の流れの中で変化しながら伝えられていくことがあると思う。何が変えてはいけないことかを見極めながら、次世代に和の文化を伝えていく(伝承)責務が我々にはあるのではないかと。日本人が日本人らしくあるために、はなふさとして微力でも貢献していきたい。具体的には、雛祭りの絵手紙大賞。手作りこいのぼりを幼稚園に配るなどの活動を、NHKや公的機関等と協力して続けている。

長時間 ご清聴ありがとうございました。



講演会会場の様子